



湘北短期大学のSDGsについて ご紹介するニュースレターです

「生活とSDGs」で用いたテキスト



・Think the Earth 編著、蟹江憲史監修『未来を変える目標 SDGs アイデアブック』紀伊国屋書店、2018年

→SDGsの各目標について、それぞれの目標の説明だけでなく、各分野の専門家による先進的な取り組みも紹介しているテキストです。それぞれの取り組みについてQRコードが掲載されており動画の視聴も可能なため、より理解が深まる構成になっています。



・日本ユニセフ協会著『知っていますか？SDGs』さくら書房、2018年

→SDGsの各ターゲットのわかりやすい日本語訳と豊富な写真・画像資料が特徴的なユニセフが作成したテキストです。以下のユニセフのSDGs用サイトでは、様々な統計資料や動画が用いられているので、併せて学習することで知識の幅を広げることができます。



SDGs CLUB

湘北SDGs

Think Globally, Act Locally.

2022年度 第4号

今回の発行人 二見 総一郎
s-futami@shohoku.ac.jp

学校法人ソニー学園 湘北短期大学 生活プロデュース学科

〒243-8501 厚木市温水 428 TEL:046-247-3131 FAX:046-247-3667

「生活とSDGs」の授業を終えて

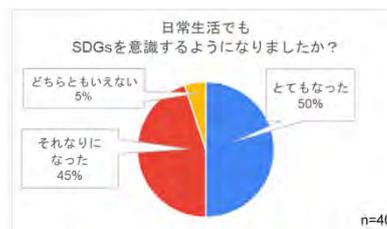
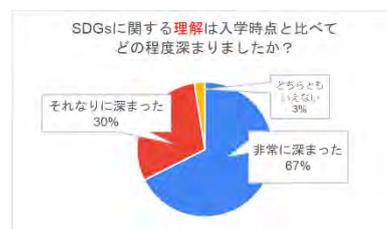
8月に前期の講義が終わり、生活プロデュース学科の新設科目である「生活とSDGs」が無事に全15回を終えました。今回は、この15回を通して学生たちの考え方がどのように変化したのか、そしてその変化の理由は何であったのか、アンケートやコメントシートをもとにご紹介します。

1. 授業前後の理解度・意識の変化

SDGsに関する理解度について、入学時点と比べて「非常に深まった」と感じた学生が67%、「それなりに深まった」と感じた学生が30%と、多くの学生が講義を通してSDGsに関する理解が深まったと感じたようです。

また、「生活とSDGs」とあるように、この講義では、自身の生活とSDGsをつなげて考えることに重点を置いていました。学生たちの日常生活の中でのSDGsへの意識の変化については、「とても意識するようになった」が50%、「それなりに意識するようになった」が45%と、こちらも多くの学生が日常生活においてSDGsを意識するようになったことがうかがえます。

SDGsへの理解が深まった・意識が変化した理由として、視聴覚教材が大いに貢献したと思われます。「湘北SDGs第3号」で紹介した動画、SDGs.TV及びユニセフの動画に、理解を深める効果が「とてもあった」「それなりにあった」と全ての学生が感じていました。



2. 学生の関心のある目標の変化

授業前後の学生の意識の変化を調べるために、17項目のうち「自分の身近に感じる目標」と「自分から遠くに感じる目標」について、4月と8月にそれぞれアンケート（複数回答可）をとったところ、以下の3点において大きな変化が見られました。

- ① 目標12「つくる責任つかう責任」について、「近い目標だと感じる」と答えた学生が大幅に増加（13人→28人）した。
- ② 目標13「気候変動に具体的な対策を」について、「遠い目標だと感じる」と答えた学生が減少（7人→3人）し、「近い目標だと感じる」と答えた学生が大幅に増加（7人→15人）した。
- ③ 目標1「貧困をなくそう」について、「近い目標だと感じる」と答えた学生が減少（7人→3人）し、「遠い目標だと感じる」と答えた学生が増加（9人→16人）した。



②の気候変動への関心の高まりについては、「湘北SDGs No.3」で紹介した豊永翔平氏の講演が大きく影響したとみることができます。専門家の実体験をまじえた詳細な語りや、学生たちの心に響いたことがうかがえます。

③の貧困について遠く感じる学生が増加したことについては、関心が遠ざかったということではなく、海外で絶対的貧困の状況に置かれている人々についての学習を通して、自分が想像していた以上の困難な状況を目の当たりにしたことで、逆に距離を感じた学生が多かったようです。

・エシカル消費とは？（消費者庁）



・計ってみよう！家庭での食品ロス（消費者庁）



・SDGs.TV



「循環するジーンズの楽しみ方～MUD JEANS」



「持続可能な美容サロンとは？」

・テキスト



蟹江憲史監修『マークで学ぶ SDGs』ほるぷ出版、2020 年

3. 自ら考え行動する主体へ

最も大きく変化した①「つくる責任、つかう責任」を「近い目標だと感じる」と答えた学生の大幅な増加に関しては、いくつかの複合的な要因が考えられます。

ひとつは、学生たちが SDGs の目標を知識として吸収しただけでなく、**自分が日常生活の中でできることは何かとの視点で考えるようになったこと**が挙げられます。SDGs 目標 12 には「つかう責任」とあるように、私たちが日常生活の中でひとりの市民・消費者として取り組める数多くの要素が含まれています。**エシカル消費**という言葉が大きく注目されていますが、学生たちが何を買い何を買わないかの価値基準を獲得し、日常の様々な場面での自分の選択が世界の状況に影響を与えていると自覚したことがうかがえます。

もうひとつは、本学での取り組みを授業内で紹介したことも影響したと思われます。本学では、本年度からペットボトルの分別回収を開始し、右の写真のように分別回収と SDGs 目標 12 について掲示をしています。これらの取り組みを学生たちにも授業を通して紹介したことで、日常生活のゴミの分別と SDGs の目標をつなげて考える学生が増えたと思われます。



また、SDGs.TV を用いて、関連動画を数多く紹介していたことも関係しているでしょう。「つくる責任、つかう責任」に関連する動画や教材については、左の欄にて詳しくご紹介します。

4. 受講後の自分の変化・講義の感想

最後に、学生たちの振り返りから、どのような学びがあったのかをご紹介します。

○食べ残しが無くなるように、作る量を食べられる量 or 少し少なめにするようになりました。そうするとゴミ箱行きになってしまう料理が減りました。ある食材だけで料理をして、ネットなどでレジビを見て作りました。新しい発見が多くあり楽しかったです。また、洗い物をする時は流す時以外は水を止めて節水をしたり、日常の中でも意識して取り入れて実践することができました。

○この授業を受けてる友達と出かける時、袋いりますかーとか蓋お付けしますかーと聞かれた時「SDGs 貢献しようぜ～」って袋とかを断るようになった。今まで以上に街中にある SDGs の表や図に目が止まるようになり、あ、このお店はこれに貢献してるんだ、じゃこ行ってみようかななど、SDGs を意識するようになった。

○中高と SDGs について学んできたが、それまでは自分が選んだ 1 つの項目を自分の力で学んで自分の力で改善点を見出そうという方法だったが、今回の授業で 1 つ 1 つの項目を深く広く学ぶことが出来て 17 項目全てを知り尽くすことができた。自分が今まで無意識にやってたことが SDGs に貢献してることだったり、自分が知らない間に SDGs に関わっていたことにこの授業で気付かされたこともあった。

○豊永さんの講習会で気候変動について詳しく教わり、身近な問題に感じたり、興味が湧いたので詳しい内容を理解することが大切な事に気づきました。

○資料動画を見るのが学びにもなるし興味の深い内容のものが多く、とくに企業や法人が作っているしっかりとした動画だったので、ナレーションが聞き取りやすかったり字幕が分かりやすくて見やすかった所が良かったです。動画の雰囲気が好きなのも多くて、誰にでも分かりやすいように編集されているなと思いました。

○SDGs に以前から関心があり、講義を通して 17 の目標について詳しくなれました。買い物をしていても SDGs の文字をよく見かけるようになり、これからもっと広まっていってほしいなと思います。テキストもあるので SDGs をあまり知らない友達などにも説明できるように、夏季休暇中に 1 の目標から見直しをしたいです。

（文責 二見）